

音楽を続けたい子どもたちの 受け皿を作りたいかった――。

10歳から70歳まで幅広い年代のメンバーが在籍する、町内唯一の吹奏楽グループ「ジョイサウンズ」。結成は13年前にさかのぼります。当時、田代小学校には吹奏楽部がありませんでしたが、中学校にはなく、進学後は吹奏楽を続けられなかった子どもたち。その頃、吹奏楽部の顧問から相談を受けたのが、現在ジョイサウンズの代表

を務める君付忠和さんでした。そして、大好きな音楽を続けたいと願う子どもたちの「受け皿」を作るため、経験者に声をかけて5人でジョイサウンズを結成します。「最初はトランペットとクラリネット、ドラム、トロンボーン2人の計5人編成でした。練習初日に演奏した曲は、フランク・シナトラの「マイ・ウェイ」。張り切って集まったものの、みんな久しぶりの演奏で音がでなかったんですよ」と当時を

Interview

2007年にジョイサウンズを結成。代表を務めながらトロンボーンを演奏する。音楽による地域おこしと交流の場づくりを目指し日々奮闘している。「子どもたちが帰ってこれる場所を作りたい」と夢を描き、走り続ける昭和31年生まれの64歳。

ジョイサウンズ 代表 君付忠和さん



結成13年目で初の自主公演開催 今だからこそ音楽の力で希望を

12月27日、結成13年目にして初めて行われたジョイサウンズの自主公演。コロナ禍でほとんど告知ができていない中で、30名を超え、団員17名が奏でる、力強く繊細な音色に耳を傾けていました。年間10回以上の出演をこなしてきたジョイサウンズですが、今年は新型コロナの影響ですべてのイベントが中止。感染拡大を不安視するなかでの実施でした。「毎年楽しみにしてくれている高齢者施設への慰問や、地域演奏会もできない状況に葛藤もありました。」

練習に励む子どもたちに成果を披露する場を作ってもいいかもしれませんが、音楽の力で地域に勇気と希望を与えることができないか、模索した結果が、今回の徹底したコロナ対策による自主公演でした。

当初、体育館での開催を予定していましたが、できるだけ感染リスクを減らそうと屋外に変更。屋外向けに音響設備を導入し、来場者の把握や消毒、検温などさまざまな感染対策を行って開催しました。「当日まで悩みました。しかし、世の中が沈んでいる今だからこそ、音楽の力を信じ、自分たちにできる事を模索した」と、迷いながらも力強く前を向いた君付さんは思いを語りました。



1 力強く美しいメロディーが会場全体を包み込む 2 密閉を避けるため屋外会場で開催 3 小学生をサポートしながら準備を進めるメンバー 4 反響がない屋外のため音響機材を使用して演奏 5 バランスを見ながら曲をまとめ上げる 6 消毒や検温、名簿作成を徹底 7 音楽仲間がサプライズで和太鼓演奏 8 換気をしながらの練習

「生の音楽に触れる貴重な機会」

子どもたちと年末公演に行きました。17人の演奏とは思えない力強い演奏と美しいメロディーに親子で感動しました。長男も大迫力の演奏を目の前で体感し、音楽に興味を持ったようです。私たちが生演奏に触れる貴重な機会になっているジョイサウンズ。これからも素敵な音楽を届けてほしいです。

ふるもと まなみ
古本 真奈美さん
あ お
空央 くん

「いつも元気をもらっている」

鹿屋中央高校との合同演奏と、年末の自主公演の両方聴きに行きました。どちらも屋外にステージを設置して、消毒や検温も徹底している印象があります。コロナ禍で集客できないのが残念だと思いますが、落ち着いたら多くの人に聴いてほしい。幅広い年代で活動するメンバーを見ていると元気がもらえるはずですよ。

さこだ かずふみ
迫田 和文さん



ジョイサウンズコンサート参加者の声